

行政視察報告

委員会名	総務委員会																								
視察日	平成28年10月17日(月)																								
視察先	滋賀県長浜市																								
視察委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">倉 沢 よう次</td> <td style="width: 25%;">委員長</td> <td style="width: 25%;">会 田 浩 貞</td> <td style="width: 25%;">副委員長</td> <td style="width: 25%;">池 田 ひさよし</td> <td style="width: 25%;">委員</td> </tr> <tr> <td>筒井 たかひさ</td> <td>委員</td> <td>上 原 ゆみえ</td> <td>委員</td> <td>小 山 たつや</td> <td>委員</td> </tr> <tr> <td>出口 よしゆき</td> <td>委員</td> <td>おりかさ 明実</td> <td>委員</td> <td>米 山 真 吾</td> <td>委員</td> </tr> <tr> <td>天 野 ゆうや</td> <td>委員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	倉 沢 よう次	委員長	会 田 浩 貞	副委員長	池 田 ひさよし	委員	筒井 たかひさ	委員	上 原 ゆみえ	委員	小 山 たつや	委員	出口 よしゆき	委員	おりかさ 明実	委員	米 山 真 吾	委員	天 野 ゆうや	委員				
倉 沢 よう次	委員長	会 田 浩 貞	副委員長	池 田 ひさよし	委員																				
筒井 たかひさ	委員	上 原 ゆみえ	委員	小 山 たつや	委員																				
出口 よしゆき	委員	おりかさ 明実	委員	米 山 真 吾	委員																				
天 野 ゆうや	委員																								
調査項目	黒壁スクエアを中心とした商店街活性化と観光まちづくりについて																								
事業概要	<p>長浜市では、歴史的建造物の保存と中心市街地再生のため、株式会社黒壁を設立し、明治時代から黒壁銀行の愛称で親しまれた古い銀行を改装した黒壁ガラス館を中心にガラス工芸と黒壁による町おこしを行っている。かつてほとんど人の行き来がなかった商店街は、ガラスショップや工房、カフェなどの店が古い街並みの中に点在する魅力あふれる観光スポットに生まれ変わり、年間200万人を超える観光客が訪れている。</p>																								
視察内容	<p>1 商店街の再生のはじまり 昭和54年、大型スーパー2店舗の郊外移転やロードサイド型の大型店舗の出店により、中心市街地は求心力を失っていった。旧長浜市の市制40周年事業として、昭和58年に市民からの浄財4億3千万円をもとに秀吉公が築いた城を復元し、400年ぶりの再建を祝って「長浜出世まつり」と銘打って各種イベントを開催した。この盛り上がりは端緒となり、その後の大きなエネルギーとなった。また、「市民が育んできた文化や伝統的なまちの雰囲気」を現代の生活の中に生かして、まち全体を博物館のように魅力あるコトやモノで覆い、個性ある美しいまちとして住んでいこう」という博物館都市構想が策定され、まちづくりはこの構想を元に進められた。</p> <p>2 株式会社黒壁 1900年(明治33年)に建てられた国立第百三十銀行長浜支店(黒壁銀行)を保存するため、昭和63年に民間8社と長浜市の出資で第3セクター「黒壁」を設立し、秀吉公以来400年続く歴史あるまち、文化芸術性にまで高める、世界に発信できる国際性を持たせるという3点を経営のコンセプトに掲げ、ガラス工芸に特化した店舗展開を行った。店舗改修など街並みの整備を進め、平成元年に65あった空き店舗が平成10年には10店舗に減少した。黒壁11店舗の売り上げは約7億円、黒壁スクエアの来場者数は約200万人、黒壁による経済波及効果は、平成元年から27年度累計で約4,776億円、市の黒壁への直接投資額は約4億7千万円。平成25年に黒壁が25周年を迎え、黒壁美術館をレストランにするなど店舗改修を行った。観光客は、京阪神や中京方面からのリピーターが多い。変わらない古い町並みの中に、新規店舗の出店があったり、店舗の業態が変わっていたりするところに魅力を感じているため、黒壁を中心に定期的に店舗を見直している。</p> <p>3 中心市街地の再生 黒壁以外の商店街に回遊性を創り出すため、統一ファサードの整備、アーケードの改修や撤去、石畳化などを行い、行ってみたいまち、また来たいまち、そぞろ歩きが楽しめる商業観光ゾーンを目指した。</p> <p>4 黒壁が中心市街地にもたらしたもの (1)参加意識の変革、雇用の創出、交流人口の増加 (2)空き店舗の解消、まちなみ景観の再生 (3)新たな文化の創出</p> <p>5 観光振興ビジョン策定 イベントの戦略的な実施、インバウンドのターゲット明確化、新規顧客開拓や文化財の利活用、導線や観光行動を意識した仕掛けづくり、産業観光の変革を担う人材育成などの課題がある。持続可能な産業として、観光消費の増大による地域経済の好循環を生み出すため、観光ビジョンの今年度策定を目指している。</p>																								
主な質疑内容	<p>(問)住民まちづくり事業の限度額は150万円だが、実際にかかる改修費用の金額と年間申請件数はどのくらいか。 (答)規模にもよるが、500万~800万円規模、1000万円の方もいる。補助はわずかだが、手助けになればということを出している。年間で4~5件くらいの申請がある。</p> <p>(問)古くからの商店街の方と新しくできた黒壁とは、はじめから良い関係を築けたのか。 (答)商店街の方からみると外から人が入ってきた感じで当初はうまくいかなかったが、現在ではイベントも共同でやっている。</p> <p>(問)店舗改修と同時に道路整備等も行ったのか。 (答)道路整備も行った。電線地中化も地域全体で行いたかったが、一部に留まっている。</p>																								

行政視察報告

委員会名	総務委員会
視察日	平成28年10月18日(火)
視察先	兵庫県明石市
視察委員	倉 沢 よう次 委員長 会 田 浩 貞 副委員長 池田 ひさよし 委員 上 原 ゆみえ 委員 小 山 たつや 委員 出口 よしゆき 委員 おりかさ 明実 委員 米 山 真 吾 委員 天 野 ゆうや 委員
調査項目	28校区28色のまちづくり
事業概要	明石市では、28の小学校区ごとに「校区まちづくり組織」によるまちづくりを進めている。本年4月には、協働のまちづくり推進条例を施行し、地域で決めるまちづくりを本格的にスタートさせた。地域によって、海が近い地域や田畑が広がる地域、商店が集まる地域、子どもが増えている地域や高齢者が多い地域などそれぞれ特色が異なっている。地域力を高め市全体の活力アップにつなげるため、28校区28色の特色を生かしたまちづくりを進めている。
視察内容	<p>1 明石市のまちづくりの歴史 平成18年から小学校でのコミュニティセンターの整備を順次進め、小学校区単位のまちづくりを始める。小学校のコミュニティセンターは、空き教室や施設開放を使用。平成22年に明石市自治基本条例を施行。平成23年4月 明石市市民参画条例を施行。平成28年4月 明石市協働のまちづくり推進条例の施行。現在の明石市の人口は約29万人、小学校区が28あり、1校区1万人前後でまちづくりをしている。</p> <p>2 協働のまちづくり推進組織 明石市協働のまちづくり推進条例により、地域の多岐にわたる課題に総合的に対応するための組織の設立や、まちづくり推進組織を構成する個人又は団体のみならず、その基本的な活動範囲とする小学校区の全ての市民を対象として、地域の多岐にわたる課題に総合的に対応するよう努めること、また、まちづくり組織の認定要件も定められている。これまでのまちづくり組織は、自治町会会長やPTA会長、子供会会長など、長のつく方だけがメンバーで、全て決めていく形が多かったが、まちづくり推進組織は、一般の方も入れる組織となっている。</p> <p>3 協働のまちづくり推進組織になるための過程 (1)プロジェクトチームの立ち上げ・広報紙作成体制の構築 (2)地域の現状・課題の把握・まちづくりビジョンの策定・具体的事業の検討 (3)実施体制の検討・計画書案の作成・計画書の承認・全戸配布</p> <p>4 地域事務局支援事業補助金 校区まちづくり組織等の事務局体制を構築する経費を対象とし、事務局員の人件費や、事務局の活動および運営に係る経費が補助対象となる。補助金額単年度200万円。</p> <p>5 地域交付金制度 平成28年4月から、各小学校区の特성에応じたまちづくりを進めることを目的に、それぞれの校区で作成した「協働のまちづくり推進計画」に基づき市と協定を締結した取り組みに対して、1校区あたり150万円を限度に必要な経費の一部を交付する地域交付金制度。</p> <p>6 今後の課題 会長が替わると運営レベルが落ち込む事例があるので、事務局機能の強化を図る。</p>
主な質疑内容	<p>(問)最初に立ち上げる役員会を組織する際には、市から各種団体をお願いしてメンバーを出してもらおうのか。また、何人ぐらい集めるのか。 (答)校区によって違うが、もともと各種団体が加入していた組織があったため、そこに声をかけて中心メンバーの方10人くらいにお集まりいただいた。</p> <p>(問)まちづくり推進組織に若い方を呼び込む工夫は。 (答)若い方は、仕事もあるし、全部にかかわるのは無理だと感じている方が多い。地域にかかわりたいという方はいるが、一般募集では、なかなか来てもらえない。部会や少人数のワークショップで、全部ではなく、この部分だけ手伝ってほしいと限定的にお話しすると手伝っていただけるので、こうした形で広げていきたい。</p> <p>(問)28校区の中で、大学や高校と連携した取り組みはあるのか。 (答)ある。大学は看護学部なので、大学側から子供の居場所づくりと一緒にやりたいという提案もある。また、高専の学生が勉強を教える事例や高校生と一緒に地元を盛り上げるため、ふるさと創生事業を行っているところもある。</p>